
美術の時間～陶芸～

茂吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美術の時間〜陶芸〜

【Nコード】

N7310N

【作者名】

茂吉

【あらすじ】

ある日の美術の時間のことです。

ある美術の日のことです。

その日は陶芸の授業でした。

粘土で造った壺に、釉薬を塗り焼き上げるという授業でした。

陶芸には釉薬などの特殊な材料が必要なので、陶芸の先生が来てくれました。

「今日はよろしく願いします」

皆で挨拶をしてから、私は粘土をよくこねて、壺の作成に取り掛かりました。

私は授業時間の三分の二ほどを使って、不格好ながらも壺を造りました。

壺ができたので私は釉薬を選ぶことにしました。

釉薬は、何の灰を使うかによつて焼き上がりの色が違つたため何種類かの釉薬が用意されていました。

リンゴ、バナナ、ナシ・・・等、さまざまな種類の釉薬が机の上に並べられています。

しかし、その中にひとつだけ何も書かれていない物がありました。

私は、不思議に思い先生に聞いてみました・

「先生、この釉薬にはどんな灰が使われているのですか？」

すると先生は少し嬉しそうな顔をした後に言いました。

「その灰は妻が大事にしたモノでね、先週やっと譲ってもらったんだ」

へへ、私はそう思ったあとにもう一度さっきの質問を試してみました。

すると、先生はまた嬉しそうな顔をして言いました。

「強いて言うなら、妻自身かな！」

・・・答えになってないので、あきれていると彼はこう付け足しました。

「細かいことは気にしない気にしない、きつときれいな色で焼けるよ」

彼がそういうので、私はその灰を使うことにしました。

釉薬が塗り終わったので、壺を机の上に置きました。

壺は、そのあと先生が回収し、近くの工房で焼いてもらいました。

数日後、焼き上がった唾を先生が届けてくれました。

焼き上がった私の壺は先生の言った通り、きれいな色をしていまし

た。

私はとてもうれしく思いました。

その後、教室でほかの人と話しているとこんなうわさを聞きました。

「あの先生の奥さん、先月お亡くなりになったそうだよ」

先月？先生がああ灰を譲ってもらったのは確か先週だったのに・・・？

私は、深く考えずに聞き間違いだと思うことにしました。

そして、自分の壺を見て思いました。

「結局何の灰だったんだろう？」と。

（後書き）

作者の茂吉です。

今回は少し露骨すぎたような気がします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7310n/>

美術の時間～陶芸～

2010年10月9日05時35分発行